

2008年9月19日(金) 13:00 ~ 18:30

公開・国際シンポジウム

会場 東京大学本郷キャンパス 法文二号館一番大教室

一般公開・入場無料 日本語／フランス語 同時通訳付

非業の死の記憶 追悼儀礼のポリティクス

La mort collective et le politique. Constructions mémorielles et ritualisations

立花政夫 (東京大学)	開会挨拶
池澤優 (東京大学)	趣旨説明
山岸智子 (明治大学)	「カルバラーの悲劇」の多義性
マルレーヌ・アルペール＝ロルカ (トゥルーズ大学)	「戦没者の谷」から共同墓穴の掘りおこしへスペイン内戦(1936-1939年)の死者の記憶
岩田重則 (東京学芸大学)	地域社会の中の「英霊」
ジャン＝ピエール・アルペール (社会科学高等研究院)	コメント
イヴ・グティノ (フランス国立極東学院)	さまよう心と体ーベトナム戦争死者の象徴的再構成と物理的再分配
黒田裕子 (阪神高齢者・障害者支援ネットワーク)	阪神・淡路大震災に見る公的システムの欠陥と自助システムの構築
オリヴィエ・ド・ベルノン (フランス国立極東学院)	政治的マニフェストから商業的猥褻へーブノンペンとその周域におけるクメール・ルーージュの被害者の回想の扱い
深沢克己 (東京大学)	コメント
	総合討議
	総合司会 池澤優 (東京大学)

20日(土) 13:00 ~ 18:30

会場 東京大学本郷キャンパス法文二号館および法文一号館

ワークショップ 死者の記憶と表象のポリティクス

島園進 (東京大学グローバルCOE拠点リーダー)	開会挨拶
セバスティアン・タンク＝ストルベル (フランス国立科学研究センター)	在アルゼンチン・イスラエル共済会館に対するテロー記憶の政治的転換
末木文美士 (東京大学)	日本における戦争の死者と宗教

分科会I

藤崎衛 (東京大学)	中世ユダヤ人迫害の記憶構築ー儀式殺人の非難と1096年の迫害
グレゴワール・シュレンメル (フランス開発研究所)	死者のポリティクスーヒマラヤの住民クルン・ライー族における先祖、邪悪な死者、行動様式
嶋内博愛 (東京大学)	子どものく死>はどう捉えられてきたのか
アビガイル・ミラ・クリック (社会人類学センター)	「砂漠の犠牲者」ー国境での若干の死をめぐる道徳的・政治的考察

大穂哲也 (東京大学)	コメント
アンヌ・ブッシィ (フランス国立極東学院)	コメント
	総合討議

総合司会 佐藤健二 (東京大学)

分科会II

富澤かな (東京大学)	英領インドにおけるイギリス人の死の記憶ーカルカッタを中心に
ステファニ・ミュロ (トゥルーズ大学)	グアドループの文化政策における奴隷貿易と奴隷制の死者たちの記憶と形象化
西村明 (鹿児島大学)	記憶のパフォーマティヴィティーー犠牲的死がひらく未来
エリック・ヴィラゴルド (モンペリエ大学)	2001年9月11日の表象と記念碑

